

LSU LK4H

渭水会々報

2022.12 月発行



Vol. 51

陶

南光氏



鑄

とうちゅう

「陶鑄」

東南光氏

関連記事→P22

総合科学部の学部長室に東南光先生（徳島大学名誉教授）の書が掛けられている。

陶鑄——陶器を焼き、金物を鑄ること。転じて、人材を育成するという意味で

ある。未来を担う若人が集う大学にこれほどふさわしい言葉はない。

発行：徳島大学渭水会（徳島大学総合科学部同窓会）

2024年は徳島大学総合科学部創立150周年

～ 学部の未来を私たちの手で～

徳島大学総合科学部は、2024年（令和6年）、その前身である徳島師範期成学校の創設から数えて150周年を迎えます。この節目の年に際し、学部と渭水会が連携し、教育研究支援事業、キャンパス環境整備事業、地域連携事業の実施、創立150周年記念誌の編

纂、記念式典・記念講演会・祝賀会・ホームカミングデーの開催等を計画しています。これらの事業を成功させ、学部のさらなる発展につなげるため、このたび募金活動を行うことになりました。皆様のお力添えをいただければありがたく存じます。

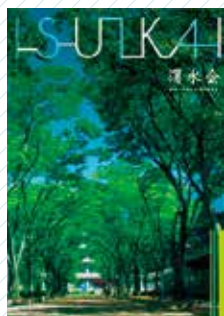
ISUIKAI

渭水会ではこのたび、2024年に向け気運を盛り上げていこうと、新しいロゴタイプを制作しました。デザインしてくださったのは総合科学部映像デザイン研究室の佐原 理准教授です（関連ページ→P3）。お気づきになりましたか？ ISUIKAIの文字のなかに、創始年の「1874」が入れ込まれていることに——。スタイリッシュで、どこかレトロなロゴタイプは、150年にわたる学部の歴史を想起させ、それを私たちの手で未来へと紡いでいかなくては、と気持ちを新たにさせてくれます。

150周年記念の渭水会オリジナルグッズも続々企画中です。これらのグッズの売り上げは、制作費を除いて全

額、学部に寄付し、150周年記念事業に充てていただく予定です。

第1弾として、クリアファイルセットを制作しました。こちらも佐原 理先生のデザインです。常三島キャンパスの象徴である樺並木、今号の表紙を飾った東 南光先生の書、あふれんばかりの色彩のハーモニーはもちろん平木美鶴先生の作品です。持っているだけで嬉しくなる、そして、つい自慢したくなるようなすてきなクリアファイル。友人へのプレゼントや、同窓会の記念品にもぴったりです。ぜひご購入いただき、150周年事業をいっしょに盛り上げていきましょう！



樺並木



陶鑄(東 南光 書)



机上の静物II(平木美鶴)

徳島大学創立150周年記念 渭水会クリアファイルセット

“徳島大学愛”あふれるクリアファイル3点セット。

売り上げは、制作費を除いて全額、学部に寄付し、150周年記念事業に充てていただく予定です。

価 格 → 3枚セット 1,000円 (税込/送料込)

購入方法 →

ご住所、お名前、ご連絡先(電話)、購入点数(セット販売のみ)を事務局までお知らせください。

お申込先 → 渭水会事務局 電話 → 088-656-7293 FAX → 088-679-8485 E-mail → info@isuikai.jp

ISUIKAI 1874



渭水会の歴史を未来へ紡ぐ。

徳島大学総合科学部で映像・デザインを専門に教壇に立ち早くも7年が過ぎました。この間にも多くの卒業生が巣から羽ばたき広く世界を飛び回っています。先日この4月に巣立ち東京で仕事をする卒業生らに久々に出会い、社会に揉まれる若人と久々に夕食でもと誘ったところです。そこで私が食事の席に選んだのはウクライナ難民の方が運営するレストランでした。故郷を追われ遠いこの日本に避難されてきた方々、少しでもそうした方々へのサポートになればと思うとともに、そうした場に皆で身を寄せるようにしようと。いま、私たちに出来ることを、出来る範囲で少しずつ。教育学部の出身だとどうも説教臭くなっていけません。でも、世界中の研究者とともに教育研究をしていると諸外国ではいかに民主主義的な教育を獲得するか常にその戦いの最中にいるということを痛感します。第二次

対戦後のユネスコ憲章に基づき、私たちの教育もまた平和な社会を求め持続可能な社会に貢献しようとしています。渭水会の仕事に触れ、徳島大学の教育に思い馳せると、今まさにそうした予測不可能な社会でたくましく生きる力を与えられる教育、また次の未来を切り開く研究の礎を固め広げていこうと思う次第です。今回作成したロゴタイプにはISUIKAIの文字に1874の渭水会の創始した年をダブレイメージで入れ込んでいます。渭水の大流のように長き月日の重みを意識するように、そして恵の水が田畑を、人の心を潤すように横の繋がりを生み出し長久の発展を祈願してデザインさせていただきました。コミュニケーションマークとしてさまざまな場面でみなさまに愛されるロゴタイプに成長していくと嬉しく思います。どうぞみなさまのご愛顧をよろしくお願いいたします。



徳島大学総合科学部 映像デザイン研究室

さ はら おさむ
准教授 佐原 理

目 次

2024年は徳島大学総合科学部創立150周年 ～学部未来を私たちの手で～

ISUIKAI 1874 → 渭水会の歴史を未来へ紡ぐ。	総合科学部 映像デザイン研究室 准教授 佐原 理 ……	3
会長就任のご挨拶	渭水会会長 石井 博 ……	6
学部長からのご挨拶	総合科学部長 高橋 晋一 ……	7

Topics 学生の「やりたい!」を支援する! ～徳島大学イノベーションプラザ～

徳島大学高等教育研究センター学修支援部門創新教育推進班 特任教授 森口茉莉亜 ……	8
---	---

特集1 阿波女はすごいんじょ

●書は人なり	書家 吉野美苑(美保) ……	10
●使命に導かれて人生折り返しで創業	株式会社ボチっとつながるPOTZ 代表取締役 佐藤 晃子 ……	12

研究最前線⑩ 心理現象の解像度を上げる研究

社会産業理工学研究部 臨床心理コース 准教授 横谷 謙次 ……	14
---------------------------------	----

連載④ パターン認知の心理をめぐって

●横並び楕円パターンの良さと単純さ	徳島大学名誉教授 濱田 治良 ……	16
-------------------	-------------------	----

追悼 元 渭水会会長「佐藤 勉先生」を偲ぶ

前 徳島市教育委員会教育長 石井 博 ……	17
-----------------------	----

連載⑨ 私の職場 My Workplace

●おもいを届ける	トーカーヒー 西谷 里歩 ……	18
----------	-----------------	----

総科をたずねて⑤

●仲間との「出会い」そして「挑戦」～徳島の藍をたくさんの人に届けたい～	総合科学部 地域創生コース2年 松林 永和 ……	20
-------------------------------------	--------------------------	----

特集2 東 南光先生遺作展

●東 南光先生遺作展に寄せて	岡田美紀子 ……	22
●熱意を持って教えてくださった東先生	島田 郁子 ……	24
●熱意溢れる東先生	園尾 淑子 ……	25
●東先生の思い出	向井ひろみ ……	25

常三島今昔② ●青春のフォークダンス …… 26

輝く新星⑧ ～第8回渭水会会長賞～

●惑うアラフォー、社会人大学院生のススメ	松本 卓也 ……	27
●挑戦しなかった後悔よりもやってみてからの後悔を	栗飯原瑞紀 ……	28
●続く繋がり	篠原 愛実 ……	29
●直感を大切に	中山 実咲 ……	30
●渭水会会長賞表彰要項		31

助成事業

●徳島市退職校長会講演会	藤田 正治 ……	32
●徳島県退職女性教職員の会 学習会	富田真由美 ……	33
●東 南光先生遺作展	井上 彰夫 ……	33

総科ニュース …… 44

徳大ニュース …… 46

事務局だより・編集後記 …… 48

P22 東 南光先生遺作展



東 南光先生を偲んで

書道に情熱を傾け、2020年に亡くなった書家の東 南光先生。徳島大学で指導を受けた教え子達が集い、今年8月、初の遺作展が開催されました。

P20 総科をたずねて



藍に愛を込めて…

藍に魅せられた現役大学生たちがたちあげた「INDEEGO」。間伐材を原料にした布を用いるなど、環境にも配慮したこだわりの商品を制作しています。

P8 Topics



プロジェクト続々進行中!

阿波電鉄、ロケットの打ち上げなど、あっと驚く多くのプロジェクトが徳島大学発で進行中です。発進元は「徳島大学イノベーションプラザ」です。

P10 特集／阿波女はすごいんじょ



阿波女はすごいんじょ

古くから“阿波女”は、自主自立心旺盛で、働き者の徳島の女性の最高の褒め言葉でした。自分らしく、生き生きと輝くふたりの阿波女をご紹介します。

P18 私の職場



思いと夢がつまったコーヒースタンド

フルーティで香り高いスペシャルティコーヒーが味わえる「トーコーヒー」。誰か「と」楽しみたい、大切な人へ「to」届けたい——そんな思いを込めて、今日も西谷さんはコーヒーをたてています。



渭水会会長
いし い ひろし
石井 博

会長就任のご挨拶

このたび、令和4年度の総会で会長に選出されました石井 博でございます。どうかよろしくお願いいたします。これまで本会の発展にご努力されてこられました濱尾前会長をはじめ、事務局を含め多くの方々のご尽力を思いますときに、責任の重さを痛感いたしております。

また、7月には徳島大学総合科学部創立150周年記念事業委員会の初会合に出席し、その歴史の積み重ねを改めて感じたところです。今後は、役員、会員各位のご協力をいただき、微力ながら本会の発展に全力を尽くしたいと存じます。

私は、昭和45年4月に徳島大学教育学部中学校教員養成課程に入学し、多くの先生方にご教示いただきました。その後、教職に就き、40数年間、徳島県の教育に携わらせて頂き、3年前に退職いたしました。時間的余裕もでき、大好きな旅行やマラソン大会参加など、さあこれからいろいろとチャレンジしようと計画していた矢先、コロナの蔓延により行動範囲が大きく制限され、また人とのコミュニケーションなども激減し、家庭での待機状態が長く続きました。

その間、徐々に何をしてもモチベーションが上がらなくなり、なかなか前向きに一日一日を過ごそうという気になれませんでした。今までの人生の中で経験したことのない厳しい状況でした。そんな時、昨年11月の事です。たまたまテレビを見ていると元気活力をいただける番組に出会いました。主旨は、「心の免疫力を上げる」ということでした。番組では緩和ケア医大橋洋平さんの数々の言葉が紹介されました。大橋さん自身も稀少がんを患って苦しんでいます。この番組の中で、私にとっては今の時代を生きていく大きなヒントがありました。

以下、具体的な言葉のいくつかを紹介させていただきます。

「本当に何もやる気が起こらなかった。日々感じる衰え。抗がん剤の副作用で足の裏が硬くなり、歩くのがままならない日があります。いつまで生きられるか、強い不安にかられたある日、体のかわりに心の免疫力を高めるという考え方に気づきました」「残念ながら、がんを患うと体の免疫は落ちます。でも考え方一つで心の免疫力はあげられるんじゃないか、そう思ったのです」「体の免疫力は無いけれども、気の持ち方、心の持ち方でちょこっと楽に生きられるのではないの。ものの見方、捉え方を、自分にとって少しでも気が楽になるような生き方ができたら」「心身ともに弱ってくると、なかなか以前のような目標を持てなくなります。でも、生きていくためには絶対に目標が必要です。目標に向かって歩いて行くことは生きる希望をつなぐことだからです」「ちょっとしたことを目標もって達成したら満足できたということで、大きな満足につながったら生きやすくなるのでは」「この厳しい時代に、しんどい思いを抱えながら生きている。生きようとしてるだけでもすごいことです」

大橋さんが、心の免疫力を高めようとしてきた数々の言葉。私自身、厳しい状況の中で明るい光が見えたような気がしました。そしてコロナ禍で悩み苦しむ人々の前向きに生きるヒントにもなるように感じました。

最後になりましたが、ご多用の中、「徳島大学渭水会」のためにご尽力いただきました前会長濱尾様をはじめ、関係各位の皆様方に心より御礼申し上げ就任のご挨拶といたします。

(昭和49年 教育学部中学校教員養成課程保健体育科卒)



総合科学部長
たかはし しんいち
高橋 晋一

学部長からのご挨拶

渭水会の会員の皆様には、常日頃、様々な形で総合科学部並びに大学院の教育・研究・運営をご支援いただき、ありがとうございます。

一昨年来、社会生活に大きな影響を与えてきた新型コロナウイルス感染症に対しては、依然として警戒、対策を怠ることはできませんが、全学の事業実施方針の基準（BCP）を踏まえ、適切に対応しております。この原稿を書いている時点（7月初め）でのBCPは制限レベル1で、受講生の多い一部の授業等では安全のためオンライン（遠隔）授業の形を取っているものもありますが、十分な感染防止対策（ソーシャルディスタンス、マスクの着用、手洗い・消毒、定期的な換気等）を講じたうえで、多くの授業を対面の形で実施しております。今後も、新型コロナの感染拡大状況、国や徳島県、全学の方針等を踏まえ、十分な感染防止対策を講じたうえで、ウィズコロナ時代における大学の平常化を目指していければと考えております。

今年度より、徳島大学では国の定めた第4期中期計画・中期目標期間に入り、本学部でも、時代や社会のニーズを踏まえた教育・研究・社会貢献等の取組を進めてまいります。地域と連携した実践教育による地域人材の育成、国際交流の活性化とグローバル人材育成の推進、地域・社会のニーズを踏まえた教育組織・カリキュラムの改革、社会人のリカレント教育の推進、外部評価を含めた教育システムの点検・評価に基づく教育の内部質保証の実質化等の課題に積極的に取り組んでまいります。

大学院については、2022年4月、創成科学研究科博士前期課程に接続する博士後期課程が新たに設置されました。博士後期課程は、文理融合型の1専攻（創成科学専攻）となっており、その中に人材養成に応じて7つの学位プログラムが置かれています。そのうち「社会基盤システムプログラム」がとくに総合科学部と関係の深いプログラムで、文理融合の視点から、地域開発、防災・減災、環境問題等の社会課題解決に貢献できる高度人材・研究者を養成します。

さて、2024年、総合科学部は1874年（明治7年）の徳島師範期成学校の創設から150年目の節目の年を迎えます。総合科学部では、この節目に創立150周年記念事業を行い、学部のさらなる発展に向けての新たなスタートとしたいと考えております。記念事業については、学部と渭水会が手を取り合って進めていくことになりました。日頃学部を支えてくださっている渭水会の皆様とともに150周年の節目をお祝いできることはこの上ない喜びであり、この機会に、卒業生と学部とのつながり、また卒業生同士のつながりがさらに強まり、一つの大きな「輪」ができればと願っております。これから記念事業委員会・記念事業実行委員会を中心に具体的な検討を進めてまいります。実りの多い記念事業となりますよう、皆様のご指導、ご支援をいただければありがたいと存じます。今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。



阿波電鉄やロケットの打ち上げなど、「え？ 徳大で?！」と驚くようなニュースが新聞やテレビなどで次々紹介されています。この「ワクワクドキドキ」の発信元・徳島大学イノベーションプラザをご紹介します。



学生の「やりたい!」を支援する!

～徳島大学イノベーションプラザ～

徳島大学高等教育研究センター学修支援部門創新教育推進班

特任助教

もりぐち まりあ
森口 茉莉亜



徳島大学イノベーションプラザ。これを聞いてピン!とくる人はどれくらいいらっしゃるでしょうか? 今回、多くの大学生が活躍するこのイノベーションプラザについてご紹介したいと思います。

2004年に創成学習開発センターの名称で設立し、これまで多くの学生プロジェクトの活動支援を行いながら、イノベーション教育手法と学習達成度評価法の開発やその成果の発信などを行ってきました。学生の自主的な活動を支援してきたこの場所は、今年度は200名を超える学生が所属し、6つのプロジェクトが稼働しています。長く続くプロジェクトもあれば、短いサイクルで終わってしまうプロジェクトもありますが、学生たちが自ら目的や目標を掲げ、それに向かってプロジェクト活動を行う、かけがえのない経験と仲間に出会う場所でもあります。

どんなプロジェクトが活動しているのか、2022年度活動中のプロジェクトを紹介します。



↑ゲームクリエイイトプロジェクト

これまでにないゲーム体験をプレイヤーに提供することを目的にゲーム制作を行っているプロジェクトです。ゲーム制作を通して技術と協調性を身に付けられるよう活動しています。現在70名近いメンバーが所属し、プログラミングだけでなく、キャラクターデザインやサウンド制作など多様なチームに分かれて一つのゲームを作り上げています。今年度からはカードゲームの制作にも挑戦しています。

阿波電鉄プロジェクト➡

電車のない徳島に電車を走らせよう!という大きな目的で活動しています。2021年には一般客を乗せてのイベント走行に成功しました。2022年度からは現役路線規格の台車の設計や製作を予定しています。今年も阿南光高校新野キャンパスでのお披露目しました。



鳥人間プロジェクト➡

鳥人間コンテスト滑空機部門に出場することを目的に設立しました。創立4年目の2021年に鳥人間コンテスト初出場を成し遂げ、「THE FRESH BIRDMAN賞」「彦根市長賞」を受賞しました。さらに、2022年も連続出場をかなえました。徳島の魅力を発信するために藍染めを使った機体づくりが魅力です。



➡ロケットプロジェクト

自作エンジンでロケットを飛ばすことを目標に活動しています。2020年に自作エンジンの燃焼に関西圏の大学で初めて成功し、今年度はそのエンジンを使ったロケットの打ち上げにも成功しました。市販のエンジンを使ってこれまで12回の打ち上げに成功させ、300mほどの高さまで到達させています。小中学生を対象にした地域貢献活動にも力を入れています。

ロボコンプロジェクト➡

毎年夏に神戸で開催しているレスキューロボットコンテストでレスキュー工学大賞を受賞することを目標に活動しています。毎年出される様々な条件をクリアするロボットを製作すること、要救助者を安全に迅速に救助するためにどうすればいいか考えながら、製作を行っています。これまで、ベストパフォーマンス賞や競基弘賞など様々な賞を受賞しております。また、小中学生を対象にした地域貢献活動にも力を入れています。



➡アプリ開発プロジェクト

徳島大学の学生生活がより良いものとなるように、『学生の学生による学生のためのアプリ開発』を行うチームが今年度より立ち上がりました。徳大ライフをより充実したものにしてくれる何か！を開発してくれることを期待しています。

なんだか楽しそうな活動を大学の支援を受けてできてうらやましいな、と思ったOBOGの方々も多いのではないのでしょうか。ものづくりを通して、プロジェクトを動かす難しさや、成果物ができた時の喜びなど、仲間と共有することで得られる発見をたくさん経験している学生たち。日々の活動はイノベーション

プラザHPや各プロジェクトのSNSでも発信しております。是非チェック、フォローしてください。

また、徳島大学を訪れることがあれば、ぜひイノベーションプラザにもお立ち寄りください。

(平成20年 総合科学部自然システム学科卒、
平成24年 大学院総合科学教育部 博士前期課程修了)

徳島大学イノベーションプラザ創立20周年記念イベント開催決定！

2023年12月1日～2024年12月1日をイノベーションプラザ創立20周年として、様々なイベントを開催予定です。イノベーションプラザの活動に参加したことがあるOBOGの方は是非HPをチェックしてください！



阿波女は
すごいんじょ



「讃岐男に阿波女」——古くから徳島の女性たちは働き者として知られてきました。徳島県の女性の管理職比率は全国一位(2021年)、女性社長率は全国トップクラスというデータは、“阿波女”の気質が脈々と受け継がれ、女性たちが社会の中で自立心旺盛に、かつ、しなやかに道を切り開いていることを表しています。自分らしく、生き生きと輝く阿波女をご紹介します。

書は人なり

書家

よしの びえん みほ
吉野 美苑(美保)



私は現在吉野川市鴨島町を拠点に活動をしています。今の活動のきっかけは2001年徳島県女性海外派遣事業に参加しスウェーデン・デンマークを訪問したことでした。それまでの私は生まれ育った徳島の地を離れることなく平穏に暮らしておりましたが心のどこかで外の世界への憧れ、外から自分の国、自分自身をみてみたいと思う気持ちが湧いてきました。そんな時、友人の勧めでこの事業に参加し男女共同参画に対する各分野の諸策を学び加えて、北欧の進んだ環境保全活動、社会保障制度、教育も学びました。このことが私の三つのライフワークの基本となりました。

①日本の伝統文化の継承

5歳から親しんだ「書道」を日本文化の一つとして意識し、海外や地域の人々に能動的にその大切さを発信しています。海外や県内外で書のパフォーマンス・ワークショップ・展覧会を開催しています。

また北欧の教育・心理学を学んだことでコミュニケーションの大切さを痛感し、自宅で年齢・国籍・障害の有無に関係なく地域の人々が集える絵画・書道・学習を学べる寺子屋「よしの塾」を2002年に開設しました。

また郷土を愛し、友を愛し、家族を愛することを言葉で表現することの大切さを説きながら自己を表現することを楽しむ『遊墨会』を主宰しています。

2005年には友人に勧められ地域の和太鼓チームに参加し和太鼓の演奏活動も始めました。2012年にNPO法人太鼓の楽校をたちあげ障がいの有無、国籍、年齢にかかわらず和太鼓を通して地域の活性化と伝統文化の継承に努める活動を続けています。

そして賀川豊彦先生の説かれた「世界平和」「相互扶助」「人類友愛」の精神をもって和太鼓と書で国内外の神社での奉納、パフォーマンスを行っています。文字は人と人のコミュニケーションの能力を高める

「藍墨」による作品



ワシントン大聖堂にて



国内外での書のワークショップ



2020年、ウィーン・コンツェルトハウス新春公演



2015年、帝国ホテルにて『マークエステル来日45周年記念祝賀会』揮毫

大切なアイテムであり和太鼓の演奏に合わせて大筆で文字を書くという所作がその場の臨場感、空気感から観る人に感動・元気を与えることができたと思っています。近年は徳島の伝統文化を世界に発信すべく『藍墨』での作品作りに意欲的に取り組んでいます。

②環境保全活動

2002年よりNPO法人江川エコフレンドの会員として毎月1日に地域の江川湧水源の周囲を鴨島第一中学校の生徒さんとともに清掃活動しています。

また近年、NPO法人竹林再生会議の一員としてSDGsをふまえ地域の厄介者の竹を伐採してパウダーにし、農業や災害時のトイレに利用する活動を拡げています。

③国際交流活動

2005年より地域に在住している外国の人や徳島大学の留学生など16か国の人のホームステイを受け入れるとともに書道や和太鼓などの体験や地域の人々との交流事業を行っています。

私のすべての活動はたくさんの人との出会い、その繋がりによって導かれたものです。この度は渭水会事務局の大井様よりお声をかけていただきこのように掲載していただきましたこと感謝の念に堪えません。

これからも皆さんの笑顔をいただけるような、また自分自身が笑顔でいられるような活動を続けてまいりたいと思います。本当にありがとうございました。

(昭和61年 教育学部小学校教育養成課程卒)

profile

●吉野美苑 Bien Yoshino

遊墨会会長	寺子屋「よしの塾」主宰
筆耕つくし 代表	NPO法人太鼓の楽校理事長
NPO法人竹林再生会議副理事長	NPO法人江川エコフレンド理事
徳島大学国際交流サロンJSS副代表	国際交流サロンベルヴェニール副代表

●おもな活動

2001年 徳島県女性海外派遣スウェーデン・デンマーク訪問
 2002年 タイ国 子どもの村学園(Moo Baan Dek)で書のWSを行う
 2005年 財内子国際交流協会設立10周年事業「ドイツ内子フェア」にて
 ローテブルク市訪問 小中学校で書のWS・展覧会を行う
 ケンペル市ケンペルギムナジウムの日本語学習者に書のWSを行う
 2006年 徳島大学国際交流サロンJSSにて留学生に書のWS(～2016)
 2011年 吉野川市鴨島八幡神社にて「新年の書」奉納(～2022)
 霊峰剣山例大祭にて書の奉納
 2012年 神山町上一宮大栗神社にて書の奉納
 東京都神津島阿波命神社にて書の奉納
 2013年 徳島県立鳴門うずしお高校にて伝統を学ぶ授業で書のパフォーマンス
 2014年 吉野川市制10周年記念式典にて書の揮毫
 吉野川市山川町山崎八幡神社にて書の奉納
 鴨島町向麻山山頂にて元旦「祝い太鼓と初硯」で書の揮毫(～2022)
 2015年 ワシントン桜まつり参加 地元の和太鼓チームとコラボ書のパフォーマンス
 フランス人画家マーク・エステル画伯来日45周年記念祝賀会にて書の揮毫
 2016年 ワシントン大聖堂の賀川豊彦像の前で書の奉納
 ワシントン桜まつりに参加、書のパフォーマンスとWS
 東京渋谷清水とき国際きもの学園「ジャパンプルーの集い」にて揮毫
 2017年 鳴門市阿波一宮大馬比古神社にて書の奉納
 2018年 駐日イタリア大使館建国記念アースデイにて日伊友好を記念して
 「和」を揮毫
 イタリアアジアウィーク2018トリノにて書を揮毫 レイジョ劇場に寄贈
 2019年 令和元年「令和の時代に捧ぐ書」として奈良県橿原神社にて書の奉納
 徳島県立鳴門高校 講演と和太鼓と書のパフォーマンス
 2020年 オーストリアウィーン・コンツェルトハウス新春公演にて
 書のパフォーマンス
 2021年 世界農業遺産3周年記念 つるぎ町家賀 児宮神社にて書を奉納
 吉野川市鴨島町中内神社にて書の奉納
 つるぎ町宮内神社創建700年記念 書の奉納
 ●Webサイト >>> <http://hikkoutsukushi.sakura.ne.jp>
 ●ワシントン大聖堂における奉納揮毫(動画)
 >>> <https://youtu.be/GYGt6LpvxAg>

使命に導かれて 人生折り返しで創業

株式会社ポチっとつながるPOTZ 代表取締役 ^{さとう あきこ} 佐藤 晃子



2021年4月株式会社ポチっとつながるPOTZ創業

POTZ (ぽっつ) ってポチっとつながるの略。高齢者の困りごとを主婦の隙間時間で解決する、デジタルの仕組みを運用する会社です。マッチングアプリ運営を主たる事業とし、教育事業(シニアのIT活用講座・主婦のスキルアップ講座)や講演活動など経験を生かし活動しています。

これからの高齢社会のクリティカルな問題をデジタルで解決したいとアプリPOTZをリリース。オンラインつながるイベント機能と互助マッチングの機能があります。互助マッチングは「主婦の隙間時間を使って高齢者の問題を解決すること」と「主婦のちょっとしたおこづかい稼ぎ」を両立させ、地域における社会貢献の裾野を簡単に広げる仕組みです。サービスメニューがあらかじめ決まっているシルバー人材センターや既存のアプリとは違って、ニー

ズとスキルを直接結びつけることで地域の人が互いにポチっとつながる機能が備わっています。

人生は選択の連続という実感

卒業して33年。教員免許を取得しながら、「なぜ教員にならなかったの」とよく聞かれます。元々はなりたい姿ではなかったのだと振り返ります。

幼少期より母親に「男女が平等に扱われる職業は教師だけ」と刷り込まれ育ちました。私が生まれた阿波町は、近所付き合いは「かぶ」制度でした。家が自営業でしたので、親に代わってご近所さんの法事に参加。女性は、前日から御膳の調理をし、当日も朝早くから精進料理作り、法要時は下座着席、会食はお茶汲みをして気配りをしなさいと。だから？

そして、徳島大学へ進学。驚いたのは、初任時僻地勤務がルールでした。なので地元で就職活動をしました。“本当はIT会社に行きたかった。”でも面接で

「東京か大阪に行けますか？」

「行けません」と即答。

大学時代の彼氏が現在の夫です。“結婚して家庭を作る”ことが選択基準でしたね。

自立すべきと刷り込まれてたので、フルタイムで31年「仕事と家庭・子育て(子供2人)」をこなしました。正直、超多忙！一生懸命日々を過ごしていたら、いつの間にか事業部門の部長に昇進していました。しかし疲れ果てていました。



ミッション

- ・誰もひとりにしない。わたしも誰かの力になる。
- ・高齢ひとり暮らしの孤独、日常の困りごとを、主婦が解決するしくみを整える。

ビジョン

1. ぽちっとつながり、イキイキ生きる。
2. 高齢者がスマホを使いこなしてコミュニティに参加し孤独が解消される。
3. 主婦や高齢者同士のたすけあいで、日常の小さな問題が解決され暮らしやすくなる。
4. 主婦は、社会的役割と自分で稼ぐスキルを養う。

バリュー

- a. 誰かのための行動が自分の成長を促進する。
- b. わたしが寄り添い、いつか寄り添われる恩送り。
- c. おせっかいの見える化で、未来が少しだけ変わる。

POTZファンの声

- 会員登録：直筆のお手紙「登録できただけでも安心」
- POTZで発表する動画：見た人が喜んでくれることが、生きがいになっている
- 毎週参加するオンライン体操：心も体もなんかスッカリ

転機は突然。

2019年年末、母親の余命宣告。2020年3月退職。母の介護に寄り添って、自分のセカンドライフは後で考えようと思っていました。

ところが、退職後まもなくコロナ禍です。病院に出入りできなくなり、自分が孤独で辛い日々を過ごすことに。

そのタイミングでまさしく運命

同時期、徳島にTIB（一般社団法人徳島イノベーションベース）が発足、起業家の話に魅了され、9月徳島県主催のシードアクセラレータープログラムに参加。このアクセラプログラムは、「シリコンバレー流」。これまでの自分の知識経験を逸脱。また、オンラインになったからこそ、海外のセミナー受講や、経済産業省・JETRO主催始動Next Innovatorメンバーに採択され、出会えた人や学びは、“運命に導かれて”としか思えません。創業するしかない！と決意しました。

POTZ“母の困りごと解決”は、実は“介護する子供側のあったらいいな”でもあります。

事業の目的は

- ひとりとして取り残さない、誰かが誰かの力になる社会。
- 主婦が隙間時間を使って地域の独居老人の困りごとを解決する地域。
- 主婦が自分の強みを活かしてコンテンツを発信し社会貢献に参画する仕組み。

を作ります。

まだ、POTZは始動したばかり。それでも「生きがいが見つかった」「登録したことで安心感を得られた」と声をお聞きすることができています。

これから、徳島県全県展開するにあたってPOTZのMVV（ミッション・ビジョン・バリュー）に共感して一緒にすすめてくださる方を募集します。

もちろんPOTZ会員登録をしてつながってくださる方大募集です。

渭水会の皆様、POTZの実現したい世界観へ、ご協力いただける方ご連絡をお待ちしています。

（平成元年 教育学部小学校教員養成課程卒）

information

株式会社ポチっとつながるPOTZ

所在地：徳島県徳島市

創業：2021年4月8日

代表取締役：佐藤晃子 090-2896-0367

<https://potz.jp>



心理現象の解像度を上げる研究

社会産業理工学研究部 臨床心理コース 准教授 よこたに けんじ 横谷 謙次
著者近影



渭水会会員の皆様、初めまして。徳島大学社会産業理工学研究部臨床心理コースの横谷謙次です。さて、この度、第12回総合科学優秀賞を受賞いたしましたので、その研究内容の一部をご紹介します。

私の研究は、心理現象の解像度を上げる研究でして、従来の方法論では誤差が大きくて解明出来なかった現象をデジタルデバイス（携帯電話など）や最新の統計技術（機械学習など）によって、解明しています。

ここでは、犯行時刻の予測を題材に解説していきます。犯行時刻の予測というのは人類の夢でして、漫画や小説などでも題材にされていますが、これを科学研究に落とし込むためには、（１）全体の人口から将来の犯罪者を予測すること、及び（２）（１）の犯罪者の犯行時刻を予測すること、という二つの予測をする必要があります。

この二つの予測を携帯電話アプリのユーザー記録

に基づいて検証してみましょう。まず、アプリのユーザー55万人のチャットの記録を半年間追跡調査しました。彼・彼女らの中には、チャット上で暴言などの違反行為をしたために、アプリの管理者から違反者とされ、罰則を受けている方がいますので、この方々を違反者としました。この違反者の方々の違反行為は全てチャット上の記録に残っていますので、何時何分何秒という精度でその方々の違反行為の時間がわかります。この時間を犯行時刻としました。

次に、（１）全体の人口から将来の犯罪者を予測すること、ですが、これは55万人の記録から違反者を割り出す作業になります。ここでは、彼・彼女らのチャット時間を１週間（７日間*24時間）168次元の分布として考えてみます。そうすると、違反者は夜中に犯行することが多いことが分かっていますので、違反者のチャット時間の分布とそうでない方のチャット時間の分布とはそれぞれ異なっており、違反者のチャット時間の分布が異常値として検出でき

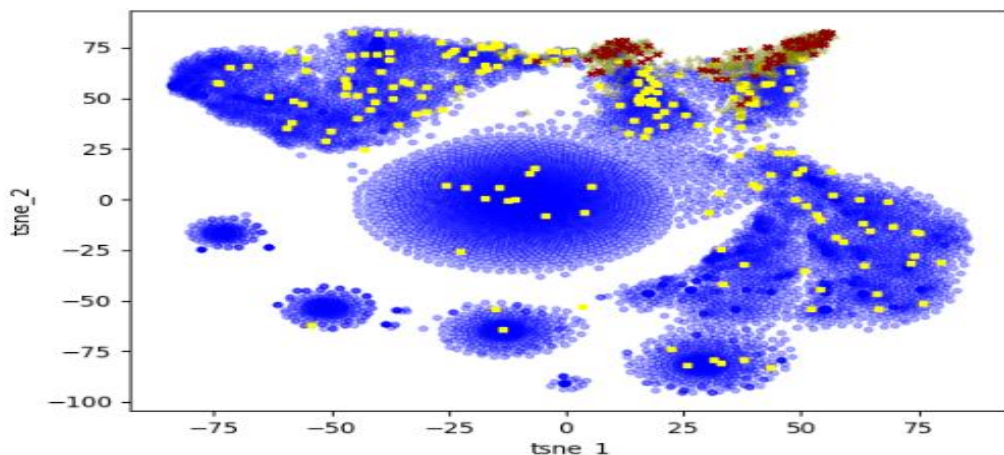


図1. 2カ月間のチャット時間の分布に基づいて違反者を予測した図

注：青の点は予想通り違反をしなかった人。赤の点は予想通り違反をした人。黄色の点は違反しないと予想されたが実際には違反した人。オリーブの点は違反すると予想したが実際には違反しなかった人

ることが分かりました。チャット時間の分布は168次元以上あるのですが、これを2次元に圧縮した図を図1に示します。図1で示される通り、未来の違反者の方々は図の辺縁に位置しており、異常値として推定されていることが分かります。

また、(2) 犯罪者の犯行時刻を予測することですが、これも違反者のチャット時間に基づいて、彼・彼女らの違反時刻を予想していきます。違反者は急に違反行為をするのではなく、事前にターゲットと

なる被害者を選定する作業をします。例えば、小児性犯罪者の場合だと、ターゲットに事前に度々接触し、そのターゲットが自分の対象になるかどうかを確認します（年齢・性別・保護者の有無など）。これらは準備行動といわれますので、この準備行動の時間を把握出来れば、彼・彼女らの犯行時刻も予想出来ます。その結果が図2です。1週間後の時間帯と曜日の予測の正解率（Accuracy）がそれぞれ0.95, 0.85ですので、それなりの精度で予測出来ています。

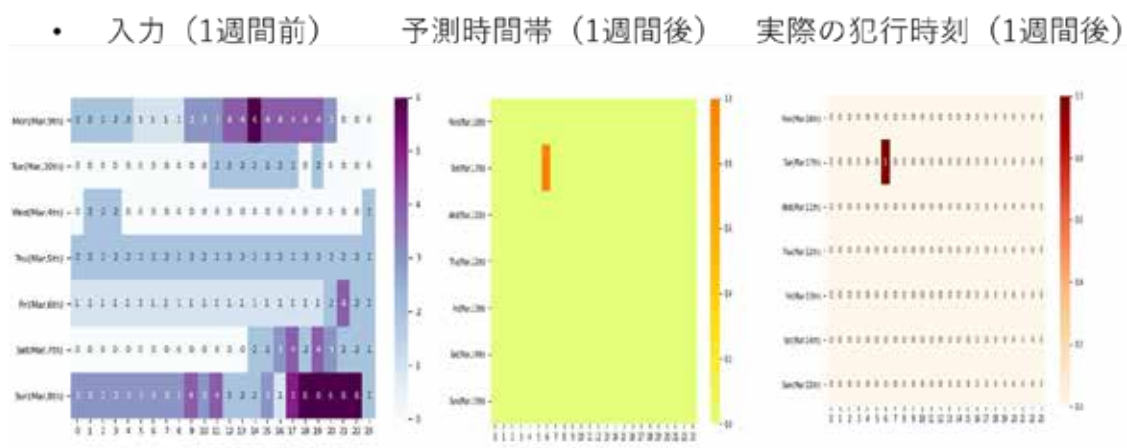


図2. 違反時刻の予想

注：左側はある一週間のチャットの時間分布、真ん中は違反時刻の予想時間帯、右側は実際の違反時刻。

このように、デジタルデバイスと最新の統計技術を組み合わせることによって、従来は難しいと考えられていた心理現象の解明が出来るようになり、心理現象の解像度が上がっていくことが分かります。この論文の詳細を知りたい方は下記をご覧ください（Yokotani, K., & Takano, M. (2022). Predicting cyber offenders and victims and their offense and

damage time from routine chat times and online social network activities. Computers in Human Behavior, 128, 107099.）。また、関連する研究成果を日本語で知りたい方は下記をご一読下さい（横谷謙次（2021）精神の情報工学——心理学×ITでどんな未来を創造できるか。遠見書房）。

グッズで学部を応援しよう!

徳島大学創立150周年記念 渭水会クリアファイルセット

2024年は総合科学部創立150周年のメモリアルイヤー。渭水会では、オリジナルグッズで記念事業を盛り上げていきます。“徳島大学愛”あふれるクリアファイル3点セット、ぜひご購入ください。売り上げは、制作費を除いて全額、学部に寄付し、150周年記念事業に充てていただく予定です。

価 格 3枚セット1,000円(税込／送料込)

購入方法 ご住所、お名前、ご連絡先(電話)、

購入点数(セット販売のみ)を事務局までお知らせください

お申込先 渭水会事務局 **電話** → 088-656-7293 **FAX** → 088-679-8485 **E-mail** → info@isuikai.jp



パターン認知の心理をめぐって

横並び楕円パターンの良さと単純さ

徳島大学名誉教授 はま だ じ ろう
濱田 治良

イラスト:尾田 理左 氏



パターンの良さと単純さは主観的な判断であり定義できませんが、私たちがそれらを点数で評定すると共通点と相違点が明確に現れます。最初に図1の横並び楕円パターンに対する変換を説明します。変換とは、一定の規則に従ってパターンを全体的に他のパターンへと変えることであり、ここでは楕円の位置および白黒の全体的変更を意味します。まず(a)は鏡映変換Mであり、パターン中央の点線に対して裏返すと左端の1番は右端に移動します。次に(b)は平行移動変換Pであり、長方形内の楕円4つを右に平行移動させ且つその他の楕円をそのまま左側へ移動させると、中央付近の4番は右端へ移動します。最後に(c)は白黒反転変換Rであり楕円の位置は固定し、その白黒をすべて変えるものです。

変換	元のパターン	変換後のパターン
(a) 鏡映 M:	 1 2 3 4 5 6 7 8	 8 7 6 5 4 3 2 1
(b) 平行移動 P:	 1 2 3 4 5 6 7 8	 5 6 7 8 1 2 3 4
(c) 白黒反転 R:	 1 2 3 4 5 6 7 8	 1 2 3 4 5 6 7 8

図1 横並び楕円パターンに対する変換

1972年に上の楕円パターンを考案した北海道大学の今井二郎氏は、1976年に共同研究者と共に人間がイメージ上でこの3つの変換にもとづいて良さと単純さを決めていることを発見しました。すなわち彼らは図2と図3を含む楕円パターン46個に対して大学生に良さと単純さを1点から7点で評定してもらいました。そのうち図2では連続数(つまり白黒楕円の塊の数)が4であるパターン3個だけを取り上げます。すると平均値は良さが5.7から3.6へと、そして単純さも5.7から4.2へと共に規則的に低下しま

パターン	変換	連続数	良さ	単純さ
(a)	P, MとR	4	5.7	5.7
(b)	MとR	4	4.8	4.8
(c)		4	3.6	4.2

図2 平均値に現れる良さと単純さの共通点

パターン	連続数	良さ	単純さ
(a)	4	3.6	4.2
(b)	5	2.6	3.0
(c)	6	3.0	2.7
(d)	7	2.9	2.5

図3 平均値に現れる良さと単純さの相違点

した。ここで変換を施しても元の形に戻る性質が重要です。つまり(a)は長方形内の楕円に対してP(平行移動)の変換を施しても、それとは別にM(鏡映)とR(白黒反転)の変換を順次施しても元の形に戻り、最高点です。次に(b)はMとRの変換を順次施すと元の形に戻りますが、Pの変換では元に戻せず、平均値は中間です。最後に(c)はこれらの変換のどれを施しても元の形に戻せず、最低点です。このように元の形への戻し方が容易なほど良さと単純さは高まるという共通点が現れました。一方、図3は上述の3つの変換を施しても元に戻せないパターンです。ここで白黒の連続数が多くなるほど単純さは4.2から2.5まで順に低下しますが、良さにはその規則性がなく、両者の違いが現れました。この実験から変換と連続数の役割が明らかになり、良いパターンは単純なパターンであるとしていた従来の理論が大きく修正されました。

(昭和46年 教育学部小学校課程心理学教室卒)

元 渭水会会長「佐藤 勉先生」を偲ぶ

前 徳島市教育委員会教育長 いしい ひろし 石井 博



佐藤 勉先生

佐藤 勉先生の訃報はあまりにも唐突でした。私は悲しみよりも茫然自失の状態が続きました。私たちに、かけがえのない方が帰らぬ旅に出られたなんて絶対に信じたくない出来事です。今でも徳島県文化振興財団理事長として勤務

されていたあわぎんホールのそばを通るたびに、先生の姿が眼前によみがえってきます。

佐藤先生は、教員として技術教育に初任者の頃から熱心に取り組まれ、自作教具を多数開発されました。当時の取り組みが示された著書「技術教育の実践」（進学社）は、全国の技術担当教員のバイブルとなっています。

また、日本の学校にコンピュータが導入される5年以上前から、徳島大学教育学部（現在は鳴門教育大学）附属中学校で、当時は、中曽根首相が米国と「スーパーハイウェイ構想」を結んでいたため、すべてIBM製のコンピュータが導入され、市販ソフト等全くない時代に、蛍光灯の点滅の仕組みなどをシミュレーションするプログラムを御自身で組んで活用されていました。

また、技術担当教員として日本の第一人者となり、平成4年からは文部省（当時）の教科調査官として、全国各地をまわり、指導要領の解説と各地の研究大会での指導助言に努めました。



附属中学校の修学旅行にて生徒たちと談笑する石井 博 会長（左端）、佐藤 勉 元会長（右端）（昭和63年）

私は、昭和58年4月から9年間、附属中学校で一緒に勤務させていただきました。常に明るくポジティブな姿勢と行動力は、生徒から大人気でした。私自身も佐藤先生の何事にも前向きな姿勢や、数々のエネルギッシュな取り組みから多くのことを学ばせていただきました。

そして、再び平成12年4月から2年間、徳島県下一生徒数の多い中学校で、教頭として佐藤校長に仕えました。

当時は、一週間交替での職員トイレの掃除分担表に管理職は除かれていましたが、佐藤校長に「管理職の名前も分担表に入れたらどうでしょうか」と提案すると、二つ返事で「そうすべきだ」となりました。毎日毎日、校内暴力や補導等の生徒指導対応で管理職を含め教職員が疲弊する状況が続き、時には職員トイレの掃除が滞るような時もありました。

そんなある時、ピカピカになった見違えるようなトイレが出現した一週間がありました。急いで当番表を確認すると「佐藤」とありました。目立たない場所でも全力で取り組み、常に学校全体のことを考えて行動する佐藤校長の姿勢は、徐々に教職員・保護者・生徒に浸透していき、佐藤校長着任時には徳島県下一荒れていた学校が、2年目の終わりには大きく改善されていきました。

その後、徳島県教育委員会教育長に着任され、温かい人柄と常に汗をかくことをいとわない行動力で徳島県教育界をリードしていかれました。

退任後は、四国大学で勤務されると同時に、渭水会会長として4年間務められ、徳島大学総合科学部同窓会としての数々の新たな取り組みを提案・実施されました。

佐藤先生との思い出は語り尽くせませんが、徳島県の教育の振興に心血を注がれ、自ら行動し背中であれに続く後輩たちを導いてきた先生の遺志は、私たちの心の中に生き続けています。

先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

合掌

（昭和49年 教育学部中学校教員養成課程保健体育科卒）

[連載⑨]

My Workplace

私の職場

総合科学部が創立されて早や30年余。
国内外を問わず多方面の職場で活躍されている
渭水会々員の皆様に、職場の状況や特色、体験談など、
その職場ならではのエピソードを語っていただきました。

珈琲屋

おもいを届ける

にし 谷 里 歩
トーコーヒー



今年の夏は、阿波踊りが開催され、いつもの徳島が戻ってきたように感じますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

私は、常三島キャンパスの近くの城東町で珈琲屋をしています。徳島では珍しい浅煎りコーヒーをメインに、スペシャルティコーヒーという生産者のおもいも伝える珈琲を届けています。店舗を構えて1年が経ちましたが、珈琲に関わり始めたのは大学4年生のときでした。就職活動が解禁になる6月。リクルートスーツを着て、履歴書を持って会社に面接に行くことに違和感を覚えていました。会社で働く自分が想像できず、大学入学時の夢だった英語教員を志す姿も想像できず、自分は何がしたいのかと考えた時に、県外へ出た友人が帰ってくる場所をつくりたいと思ったのがきっかけで、卒業後、就職せず

お店を構えようと思い、日曜日限定の間借りカフェ「ナナブンノ珈琲」を始めました。ナナブンノは1週間のという意味で、週に1回だけの営業でしたが、いつか毎日できたらという願いを込めていました。が、営業を開始してから3ヶ月後の9月、お店を運営するために社会のことをもっと知っておきたいと思い、半袖のTシャツで就職活動を始め、神山町にあるサテライトオフィスに就職し、映像制作の仕事をすることになりました。

会社員をしながらナナブンノ珈琲を続けていましたが、就職1年目でコロナが流行し、イベント出店が軒並み中止。そして、おうち時間やコロナ鬱など、外出をしない生活が当たり前になりました。私も夫と毎月のように県外へ出かけていましたが、それでもできなくなり、コロナ下で私たちにできることはないかと思い始めたのが「トーコーヒー」です。誰か「と」一緒にコーヒーを楽しみたい、そして大切な人へ「to」コーヒーを届けたいと思い、日々の生活が少しでも豊かになるように珈琲を淹れ始めました。

トーコーヒーでは、ドリンクの提供とコーヒー豆の販売をメインに、県内外のカフェや会社へのオフィスコーヒーなど卸販売をしています。夫が焙煎を担当しているのですが、浅煎りにこだわっています。私たちが浅煎りコーヒーを初めて飲んだ時、今まで飲んだことのないフルーティーな味わいに衝撃を覚えました。浅煎りは、コーヒーが果実であることを感じさせ、生産者のおもいをお客さまに届けることができると私たちは思っています。だからこそ浅煎りのコーヒーを焙煎し、お客さまに届けること



豆ごとに抽出を変え、それぞれの個性を十分に引き出しています



1



2



3



4



5

- 1 焙煎機はアメリカ製のDIEDRICHを導入。フルーティで甘味を最大限に引き出した焙煎をしています
- 2 コンクリートと木材で構成された素敵な空間
- 3 常時4~5種類のシングルオリジンをご用意しています
- 4 ラテベース1350円も人気。無糖と、和三盆ラテベースがあります
- 5 コーヒー豆は全国発送も。厳選したスペシャルティコーヒーをどうぞ



読者プレゼント商品

で私たちが初めて飲んだときと同じような感動を通して、生産者のことまで興味を持ってもらえる珈琲をつくっています。最近では、webショップからの注文や県外へコーヒー豆を卸す機会が増え、徳島から全国へコーヒー豆を届けることができていることに嬉しく思っています。珈琲屋を始めるとき、徳島という深煎り文化の地で浅煎りコーヒーを発信していきたいと思っていたことが少しずつですが叶っているように感じます。

トーコーヒーは私たちがいなくなっても、珈琲を届けていけるようにお店を大きくしていきたいと考

えています。まずは、徳島の店舗でより多くのお客様に珈琲を届け、将来的には夫の地元である兵庫県にも店舗を構えることが夢です。そして、私たちが生産者のおもいを届けながら珈琲を提供することで、生産者がよりおいしいコーヒーを栽培できるよう循環が生まれればいいなと思っています。私の職場は、人を幸せにできる場所だと思っています。私たちがつくる珈琲で、お客さまの生活が少しでも豊かになっていれば幸いです。

(平成31年 総合科学部社会創生学科 地域創生コース卒)

information

●トーコーヒー

徳島市城東町1丁目1-12

電話なし。連絡はこちら >>> tocoffee2020@gmail.com

営業時間 水～金 12:00～22:00 土・日 12:00～18:00

休業日 不定休 祝日の場合は営業 ※臨時休業など詳しくはSNSにてご確認ください



仲間との「出会い」そして「挑戦」 ～徳島の藍をたくさんの人に届けたい～

総合科学部 地域創生コース 2年 まつばやし と わ 松林 永和

2021年8月、「令和3年度次世代創造実践プロジェクト」にて、私たちINDEEGOが結成されました。はじめのメンバーは、代表を務める安藤悠馬（理工学部3年）、松林永和（総合科学部2年）です。安藤が「人生に1度は藍染してみたい」と呟いたことがきっかけでした。徳島県の伝統文化である藍染めの青色は、「JAPAN BLUE」として世界に知られるほど、深く鮮やかな日本を代表する色です。今年「ORIGAMI」という新コンセプトで話題を呼んだサッカー日本代表のユニフォームの色も「ジャパンブルー」と呼ばれ、これも「藍色」を表現していると言われています。このように、徳島の伝統でもあり、日本の誇りでもある「藍」をより多くの人に手に取ってもらいたいという思いが私たちにはあります。



皆さんは、藍染の商品にどのようなイメージをもっていますか。器や衣服、財布、マスクなど多様なモノに染色されていますが、どの商品も一般的なもののよりも高価なものというイメージがあるかと思っています。その理由として、藍の色合いを出すには数



回染めを繰り返すことと、染色の液体管理が困難であることが挙げられます。また、一度に大量生産ができず、作業の工程に時間がかかります。私たちは、この時間をかけて一つ一つの商品に真心こめて向き合えることが一番の魅力だと考えています。同じ時間、同じ染め方をしても全く同じものにならないところが藍染の魅力です。色の濃さや柄の好みは人それぞれで、その違いを楽しめることこそが醍醐味でしょう。

結成当時は、ECサイトを用いたオンライン販売を行っていました。家族や親戚、友人、さらには東京都在住の方からの注文に大変喜びと達成感がありました。また、自分たちで染め作業を行う中で、「子どもたちに藍染体験会を開くのはどうか」と気づき、小学生・保護者約10名を対象に親子藍染体験会を開催しました。子どもたちが楽しそうに藍染し、完成品を見て喜んでいるところを見て、オンライン販売では見られない人と人との交流の楽しさを実感しま



手袋無しで染めちゃう伊藤



綺麗に染め上がり、嬉しそうな代表の安藤

した。お客様と顔を合わせて同じ空間を楽しめる実地販売に魅力を感じた私たちは経営方法を変更することに決めました。この時、同じく次世代創造実践プロジェクトで別の事業を立ち上げていた2人がINDEEGOへ加わります。伊藤沙緒子（理工学部2年）と増本咲枝（総合科学部2年）です。彼女らの行動力とアイデアもあって、今年の6月に初めての実地販売を行いました。コワーキングスペースを創る学生団体eureka主催の学生マルシェです。大学の友人から地域の方まで多くの人が来場し、直接商品の魅力をお伝えすることができました。

現在、INDEEGOの商品は、ハンカチ、マスク、シュシュの3種類です。私たちの経営コンセプトである「あいに溢れる社会を創る」という思いから、手頃な価格かつ生活の一部に取り入れられるような商品を販売しています。ぜひ一度、私たちの愛（藍）を受け取ってみてください。



オンライン販売のときのラッピングです。
ロゴも自分たちで手作りしました！

information

●Instagramアカウント





東 南光 先生 遺作展

書道に情熱を傾け、2020年7月に亡くなった書家の東 南光先生。
徳島大学で指導を受けた教え子達が集い、初の遺作展を開催しました。



東 南光先生遺作展に寄せて

おかだ み き こ
岡田 美紀子



令和4年8月5日から7日の3日間、ガレリア新蔵を会場として、徳島大学名誉教授であり、徳島大学書道部顧問として長年ご指導いただきました東南光（国恵）先生の遺作展を開催することができました。コロナ感染者が増加の状況下、無事に開催できましたことを心から喜び、できてよかった、してよかったと思える遺作展となりました。

東先生は徳島大学教授、書道結社「^{そうちようかい}双暢会」の主宰、また璞社、読売、書芸院関係での数々の要職に居られ、その上、国際蘭亭筆会の日本理事長として書道を通じた国際交流活動に30年近く尽力されました。

東先生が37歳で徳島大学へ就任されたとき、私は20歳、書道部の部長をさせていただいていました。授業や部活で、臨書や創作、教材研究はもちろんのこと、篆刻や表具と多くのことを学びました。その後も徳大書道部顧問として長きに渡りご指導いただきました東南光先生がご逝去され、この7月で2年目の夏を迎えました。3回忌となるこの夏に、徳大書道部・OB会として何かをしたいという話から、ご自宅に残された先生の作品を皆さんとともに鑑賞できる機会をもちたいとの思いに至り、「東 南

光先生遺作展」を開催することになりました。東先生の思い出話とともにOB会の皆様方とお会いできます好機会となれば、ささやかながらご恩返しができると考えて企画した次第です。



当時の先輩後輩



退官記念に制作された代表作「墨縁」。人の縁を大切にした東先生らしい作品

今回は、学生時代に直接東先生にご指導をいただいたかつての教え子である私たちが、部活動の延長のように実行委員として、エピソード集「東 南光先生を偲んで」を作成するとともに、遺作展の運営をいたしました。ご遺族の協力をいただき、会場には約50点の作品を展示することができました。225cm×53cmの画仙紙4枚に酔古堂剣掃の一節をしたためたもの、ダイナミックな筆使いで揮毫した「墨縁」

愛用の硯や筆も展示



書はもちろんのこと、大皿や花器、紙も表装も、見事であり、自由であり、繊細であり、東先生の情熱や個性あふれる素敵な書作品ばかりでした。また、徳島大学在任中に編纂、発行された蔡襄、蘇東坡、黄山谷、米芾の「宋四家辞典」や、蘭亭会や中国訪問など150回を超える訪問記の文集や写真も展示しました。

今年の夏は暑い暑い夏でしたが、238名の方がご来場くださいました。徳島大学時代を過ごされた方、書に携わっている方だけでなく、藍住町内の方も多く、東先生の人を大事にするお人柄を改めて感じました。懐かしい方々や親しい方に出会う度、「東先生、よかったね、嬉しいね」と、遺作展会場の東先生のお写真に何度手を振ったかというほどでした。OB会の先輩も遠く沖縄の宮古島や熊谷市、尼崎市からと、東先生と先生の作品に会いに来てくださいました。ひとつひとつの作品をじっくり眺める方、写真を撮られる方、2回・3回とお越しいただいた方、作品について質問してくださる方、東先生との思い出を話していただいた方、「教育学部卒業です」と声を掛けていただいた方と、嬉しい忙しさを感じるこののできた3日間でした。



東先生の息子さん（前列左から2人目）とともに

会場で書いていただいたメッセージには「教え子の皆様の東先生への愛の力が伝わりました。先生が清く素晴らしいお方だったとわかります。心が洗われ、豊かになったように思います。文字は芸術、人の心に働きかけるものだと知りました」「墨や紙から伝わる迫力、南光先生の90代、90代、そして100歳の書も見てみたかったと思いました。小坂奇石先

生とのご縁で徳島でご活躍され、それを教え子のみなさまがこのように大切に作品と私たちを出会わせてくださり感謝！ありがとうございました」と。温かく素敵な時間を過ごしていただけたように感じました。

東先生のお導きで、この夏、私たちは30年ぶり、40年ぶりに再会することができました。四国大学書道連盟の合宿を中心としたアルバムや文集「水莖」に見入り、同窓会ができたと実感しました。この遺作展で、かつての書道部、研究室の仲間で集えたこと、そして、私たちが学生のように協力していることを、東先生も喜んでくださっていることでしょう。東先生に感想を聞かせていただきたいという気持ちでいっぱいです。



文集水莖とアルバム

徳島大学で過ごせたこと、東先生に出会えたことに感謝し、これからも筆を持ち続けたいと思います。東先生、ありがとうございました。また次回、5年後、10年後に東南光先生の遺墨展ができれば嬉しいという思いでいっぱいでございます。

東先生の遺作展は、ご家族の方のご協力と、渭水会をはじめご協力とご支援をいただきましたみなさまのおかげで開催することができました。ここに深く感謝申し上げます。

最後になりましたが東 南光先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

（昭和56年 教育学部養護学校教員養成課程卒）





今年4月、3年ぶりの徳島大学書道部・OB会書作展が開催され、東先生の思い出話をたくさん聞くことができました。富久和代（鳴泉）徳大書道部OB会会長・四国大学名誉教授（昭和42年3月卒業）先生からは、1986年の中国浙江省以降、ほぼ毎年開かれた国際蘭亭筆会での先生のご尽力の様子、旅の思い出、心温まるエピソードを聞かせていただきました。

その思い出話を皆様にもぜひ知っていただきたい、また皆様方からも知らせてほしいという思いから、メッセージを呼びかけましたところ、沢山の写真や資料、思い出をお送りいただき、一つの冊子にまとめることができました。その中からいくつかご紹介します。

熱意を持って教えてくださった東先生

しまだ いくこ
島田 郁子

私は徳島大学の書道部と書道研究室、卒業後も少し双暢会でご指導いただきました。先生は何に対しても全力で取り組まれていてとてもお忙しいそうでしたが、そんな中で私たち学生に本物に触れる機会をたくさん作ってくださいました。

まず、様々な文房四宝に触れさせてくださいました。そして表具の仕方、印の作り方、展示の仕方など先輩から教えていただいた上にさらに様々な可能性を示してくださいました。集中講義では小坂奇石先生や篆刻の梅舒適先生を招いてくださいました。ちんまりと上品に座った小坂奇石先生の柔らかな雰囲気に触れ、また篆刻のいろいろな道具や篆刻の作品の自由で洗練された世界をのぞかせてくださいました。貴重な体験です。

書道部の合宿で印象的だったのは、東先生が何日分かの新聞紙を重ねて紙切りナイフを鋭く立てて持ち、気迫をこめてザッと切り、「筆を立てて書くと線に力が入る」ことを示してくださいました。「あ、そうか」となにかがストンと腑に落ちたことを覚えています。

書道研究室のみんなで奈良に研修旅行に行って、墨を作っている工房を訪ねたことも貴重な体験でした。少し暗い部屋で練り込む墨の柔らかさや鈍い光、そしてなんともいえない墨の良い香りが鮮明によみがえります。

先生は自分の足で動き、いつも体を使って何かをつくりだしていました。何かに向かって進んでいる感じでした。お忙しいスケジュールの間にも思いついたアイデアを形にしてされていたことが思い出されます。

今となってはとても残念なことは、先生と一緒に中国を訪れる機会を逃したことです。龍門石窟や孔子廟など、解説をお聴きしながら丁寧に見学したかった。その空気に触れたかったとよく思います。はるか中国でも個展を開かれたことを思うと、あらためて先生の書道にかけた情熱が偲ばれます。先生本当にありがとうございました。

昨年度（令和3年度）、書写の統一大会が勤務している渋野小学校で開催されました。ちょうどその夏に岡田美紀子さんから東先生の薫の筆を見せていただきました。それをきっかけに、大会前に子ども達に何か書道の本物に触れてほしいと考えて、薫筆と、自分が持っていた墨・硯・筆・紙と東先生の作品や書道部先輩の山尾素文さん川村厚さんの作品、その他渋野小の先生方からも色々な作品や書道用品を持ち寄っていただきミニギャラリーと称する展覧会を開きました。展覧会などに出かけられない昨今、子ども達が興味をもって鑑賞してくれたことで、今までの経験をほんの少しだけ次へ引き継ぐことができたかなと思いました。



（昭和59年 教育学部小学校教員養成課程書道研究室卒）

熱意溢れる東先生

その お とし こ
園尾 淑子



筆者は右端

東先生との出会いは、大学3年生の時。ちょうど役員が交代し私たちがお世話をする学年になった時でした。若く熱気溢れる東先生が徳大においでくださり、書道部の顧問に。体育館2階での練習日に熱心に指導してくださった。ていねいに筆の動かし方や用法について教えていただき、練習の日が楽しみでした。

東先生の書く姿を見て、筆が思い通りに動き、作品になっていくのを感動しながら見たことを覚えています。先生に書道部のことで相談したいことがあって友達と一緒に先生の家になぞりお邪魔し、串カツを食べさせていただいたことも懐かしい思い出です。学生を大事にしてくださった先生の一面です。

時間が空いていれば、先生の授業に参加しました。小学校の書写のあり方や篆刻も体験させていただきました。いつも前向きに教えてくださる東先生の姿は今も脳裏に残っています。とても器用で先生手作りの墨すり機を譲っていただき長い間使わせていただきました。

三好の方には、教員対象の夏季研修にも来ていただき、先生方に熱心に指導していただきました。実際に参加者が書き、それぞれの作品の良さを話してくださいました。また、いろいろな印を見せていただいたり、楽しく書写学習を進めるヒントも教えてくださったり有意義な時を過ごしたことを覚えています。研修会の後で東先生を囲んで昼食会をして和気藹々と語り、楽しい時間を過ごしたことも懐かしい思い出です。写真好きの東先生が自分の写真機で写真を撮って、後日送っていただきました。出会った人を大事にし、まめな先生の一面だったと思い出されます。

(昭和56年 教育学部幼稚園教員養成課程卒)

東先生の思い出

むか い
向井ひろみ

ハンサムな東先生、あっという間のお別れとなり、とてもさみしく感じます。

私が大学2年生の4月、ご家族で徳島に移られて…。初めてお会いしたのは、確か「ありの道」での書道部の飲み会（歓迎会？）だったと思います。素敵なお墨生先生も一緒でした。

授業では、篆刻を初めて体験しました。キャップを作るだけで、はあ〜…息をつく感じでしたが、夢中で取り組みました。また、夏休みの宿題は「蘭亭」全臨。下宿で机に向かい、一枚一枚…とずいぶんたくさん書いたことを覚えています。朱墨で添削していただき、戻してくださった、あの私の作品は、今もわが家に大切に置いています。私の原点です。時々懐かしく見返すこともあります。

部活の展覧会で、近代詩文にも挑戦することもできました。さだまさしの「飛梅」です。表具から剥がした作品は今も持っています。（物持ちがよい?）

お正月のOB会に10年前くらいから出席するようになり、先生にお会いするたびに、私のことを「くにごん」という大学時代のあだ名で気安く呼んでくださいました。うれしかったです。

また、私ごとですが、徳島県の書写教育の担当になり、退職前の4年間こども書道展の審査に行きました。毎年1回、東先生も審査員としてお会いできたのも思い出です。3年間同席しましたが、4年目は闘病されて一緒にできず、とてもさみしく思いました。



2017年7月、東先生と（筆者は中央）

2年前、退職して再び書道を始めました。昔の硯や紙など使えるものもあり、思い出はまだまだ続いています。今回の遺作展にあたり、東先生のことを思い出しながら、「くにごん」と呼んでいた声、まだ聞こえるようです。

(昭和57年 教育学部小学校教員養成課程 数学研究室卒)

常三島 今昔 ②

青春のフォークダンス



昭和31年度学芸学部体育大会でのひとコマ。学生や教職員も参加して、借り物競走、ムカデ競走などさまざまな競技が行われ、ゼミやサークルによる仮装行列も繰り広げられた。男女仲良く手をつなくフォークダンスに、学生たちはさぞ心ときめかせたことだろう。

(学芸学部 1956年10月)

輝く新星

第8回
渭水会
会長賞

平成26年度に創設された「渭水会会長賞」。これは、研究及び学生としての活動全般において優れた学生に対して贈られるものです。第4回からは、対象を院生にも広げ、学生3名・院生1名に贈呈しています。令和3年度の表彰式は、新型コロナウイルス感染症の影響で残念ながら中止となりました。

令和3年度（第8回）渭水会会長賞の受賞者は
松本 卓也さん（大学院創成科学研究科修士課程地域創成専攻）
栗飯原瑞紀さん（総合科学部 国際教養コース）
篠原 愛実さん（総合科学部 心身健康コース）
中山 実咲さん（総合科学部 心身健康コース）の4人です。

惑うアラフォー、社会人大学院生のススメ

まつもと たくや
松本 卓也



この度は渭水会会長賞という名誉ある賞を頂き、有難うございます。他大学にはなりますが、10年以上も前に学部をぎりぎりの成績で卒業しましたので、今回このような賞を頂けたこと、とても嬉しく思っております。

私は2011年に徳島県の上勝町という小さな町に移住し、現在は地元出身の妻と小学1年生の息子、そして2歳になる愛犬との4人家族で暮らしています。移住後は妻や仲間たちとともに「上勝町を五感で感じられる」をコンセプトとした「カフェ・ポールスター」という飲食店を立ち上げ、「100年続くまちづくり」を合言葉に地域の現場で様々な活動に取り組んできました。みなさんもおぼあちゃんの葉っぱビジネスとして知られる「いろどり」やごみゼロの社会を目指す「ゼロ・ウェイスト」の町として、まちづくりの好事例として取り上げられることも多い町です。しかしながら、現実的には人口減少に伴いまちの力は失われつつあります。日々目の前の課題に必死に取り組む毎日の中で、まちの未来のために貢献できたこともあると思いますが、このままで良いのだろうかと不安に駆られることも多くありました。本当にこのまちが100年後も続いている状態とはどういうことなのか、そもそもそんなこと可能なのだろうか。活動を続けてくる中で、そうした迷いが自分の中で少しず

つ大きくなってきました。

私が大学院に進学することを考えたのは、こうした疑問や自分自身への迷いを払拭するためでした。これまで自分が取り組んできたことを振り返り、他県や他市町村の取り組みを学び今一度大きな視点で上勝町を捉え、次の10年、20年を生きていく上での考えの礎を築きたいという想いからでした。2年間の修士課程では、地域計画を専門とする田口太郎先生の研究室に所属し、まちづくりへの市民参加をテーマに、自身が携わっていた「こまつしまりビングラボ」という活動を事例研究としてまとめました。地域に暮らす市民が主役となりながら、行政や企業、また地域外からの様々な関係者を巻き込みながら未来をつくるための試行錯誤の過程を調査し、その成果と課題について論じました。社会人としての大学院



卒業式の日には研究室の後輩ふたりから、お花と記念品をもらいました

生活は、授業や研究と仕事が重なり大変な部分もありましたが、時間を作るために日々何気なく過ごしてしまっている隙間時間を見直すきっかけになり、日常にメリハリを持つ良い機会になったようにも思います。特に、社会人になった今だからこそですが、明確な目的を持って学ぶことを、純粹に楽しめたと思います。この記事を読まれている皆様の中でももし悩まれている方がおられましたら、案ずるより産むが易し、ぜひぜひ挑戦することを無責任にオススメします！

最後になりましたが、社会人として大学院で学んだこの2年間、ご指導頂いた田口先生と田口研究室のみなさん、いつも暖かく、時に厳しく指導をくださった豊田先生、矢部先生、佐原先生を始めとした先生がた、本当に有難うございました。肝心の大学院に進学した際の目標ですが、まだまだ道半ばであります。何かを探究し新しいことを知れば知るほど、自分が如何に何も知らないかを知るばかりです。四十まで3年を前にして、ますます惑うことが増えているような気がしますが、この春からは博士課程



私が修士を修了し、息子は小学校に入学しました

に進学しましたので、皆様惑うアラフォーにもう少しお付き合い頂ければ幸いです。そして、そんな夫に付き合わされ、自身も忙しい中家事に育児と負担をかけっぱなしの妻、一緒に遊ぶ時間を少し我慢させてしまった息子と愛犬にも感謝しています。皆様、これからもどうぞよろしくお祈いします。

(令和4年 大学院 創成科学研究科 地域創生専攻修了)

挑戦しなかった後悔よりもやってみてからの後悔を

あい ほう みずき
栗飯原 瑞紀



挑戦と失敗の連続。これが私の徳島大学での5年間を表す言葉です。小学生の頃からバレーボール漬けの生活を送ってきた私は、元より興味があった海外留学に挑戦することが大きな目標となっていました。その一環として大学1年次から台湾、スペインでの短期留学を経験してきました。海外での経験が増えるほどにより専門的で実用的な語学を学び、海外



台湾育達大学の学生たちと

で生活することができる力を身につけたいと感じるようになりました。このまま大学を4年で卒業するべきか、卒業を1年延ばして長期留学に挑戦するべきかを迷っていました。そんな時、長期留学から帰国された先輩の「挑戦しなかった後悔よりもやってみてからの後悔を」という言葉に感化され、田久保先生に相談をした後に長期留学に挑戦することを決めました。

ゼミ活動で言語学を専攻していたことから、非英語圏の中でも英語教育が進んでいるスウェーデンのルンド大学を留学先として選定しました。スウェーデンで2番目に古く、北欧最大級の大学で、街全体がキャンパスと言われるほど街に根強く定着している大学です。留学開始から自分の英語力のなさに絶望を感じる日々の連続でした。自主性を重んじるルンド大学では、座学よりもグループワークがメインの講義ばかりでした。理解は出来ても自分の言葉で伝える力がなかったことから自信をなくし、アウトプットすることに怖さを覚えている自分がいました。

そんな自分を変えたいと思い、毎週水曜日の講義後に開催されている“Language Café”や土日に開催されるイベントに参加して現地の学生と話すことに挑戦しました。拙いながらも思いや考えを伝えたり、スウェーデン語を教えてもらったりしているうちに自然と話すことに抵抗を感じるものがなくなっていました。講義内でのグループワークやプレゼンテーション、ヨーロッパ各国を旅行した際も難なくコミュニケーションをとることができました。迷ったり行き詰まったりしたらそこで止まるのではなく、なにか新しいことをやってみたり、行動に起こしたりしていく。小さなことでも良いので、挑戦してみることでこれまでの自分になかった考え方や興味が出てきて、自分の経験に自信を持てるようになりました。この経験を通して今の自分を変えたければ、まずは行動に起こすこと



スペインでのトマト祭りにて

の重要性に気付かされました。あの時、何も行動に起こしていなかった自分を想像すると、なぜなにも行動を起こさなかった

のか後悔しかしていないような気がします。

社会人になった今でも自分の興味のあることに臆さず挑戦することができて

いるのは、留学準備で支えてくださった田久保先生やメリディス先生をはじめ、学務係の小林さんなどの多くの先生方のサポートがあり、ルンド大学での経験を積むことができたからです。いつかコロナ禍が収束した際には必ずルンドに赴き、お世話になった先生方や友人に成長した姿を見せたいです。

最後になりましたが、この度は渭水会会長賞をいただくことができ、誠に光栄に思っております。徳島大学入学当初では思い描けなかった、濃密で充実した大学生活を送らせていただくことができたこと、ご指導またはご支援してくださった先生方や職員の皆様、一番近くで支えてくれた家族に心から感謝申し上げます。徳島大学がこれからも素晴らしい発展を遂げていきますことをお祈り申し上げます。

(令和4年 総合科学部社会総合学科 国際教養コース卒)



スウェーデンの寮のフロアメイトとのインターナショナルパーティーを開催しました

★ 続く繋がり

徳島大学を卒業し、早4カ月が経ちました。社会人としての生活は初めてのことで、新鮮であると同時に大変でもあり、毎日生きることが精一杯でした。大学卒業後、新たな生活に苦労しているのは、私だけでなく、他の同級生の方々も同じだと思います。しかし、徳島大学での4年間を活かして、それぞれの道で頑張っていることと思います。

私は、総合科学部社会総合科学科心身健康コースに所属していました。大学生活を改めて振り返ると、私にとって重要だったと思う経験は卒業研究です。さらにいえば、卒業研究での「主体的な取り組み」と「周囲の人を巻き込んでの実践」です。この2つが、現在働く上で役立っていると思います。高校生活までは決められた授業を受けるのみであり、自分の行動が他人に与える影響はわずかなものでした。しか

しのはら まなみ
篠原 愛実



卒業式の日

し卒業研究では、テーマの決定、方法の試行、周囲の人々との協力が必要となります。これらを成し遂

げるためには、自分で選択した授業や授業外での調べものを通して主体的に知識を吸収し思考すること、そして周囲の人々とコミュニケーションをとることが、必要不可欠です。

事務職として働く中で、これらは仕事に関連する要素だと思いました。仕事は自分一人で完結するものではなく、周囲の職員や上司、他部署の職員など多くの人と関わり合いながら行います。そのため仕事に対して主体的に取り組むこと、そして周囲の人々と協力しながら行うことは社会に出ても必要なことだと気づきました。大学での卒業研究を通して、主体的な態度や周囲の人を巻き込んだ実践経験があったからこそ、社会人としての4カ月を乗り越えることができたのではないかと考えています。4カ月働いてみて、どのような社会人になりたいか意識しながら生活することが大事だなと思いました。目標がないと自分の居場所を見失うからです。私は、学び続ける社会人を目指して日々頑張っています。特に私は、現在、大学で学んでいた分野とは異なる分野の仕事をしています。仕事に必要な知識を身につけるため、日々勉強していますが、目標があるほうが頑張れている気がします。



卒業後に受け取った研究室ポロシャツ

学ぶことは、新しい視点や考え方を得るということです。同じ現象に対して複数の捉え方ができることは、人生の楽しみだと個人的に思っています。このように考えたときに、



久しぶりの研究室

大学生活で得た経験や人脈が大学を卒業することで完全に断たれてしまうというのは、もったいないことのように思えます。大学生活で得た経験や人脈は人によって様々だと思いますが、どれも将来の私たちに必要な財産になると思います。様々な分野で活躍している卒業生や在校生、先生方が、徳島大学という接点を通じて、お互い助け合っていくことができれば、おもしろいのではないかなと思いました。私は幸いなことに、卒業後も研究室の先生や後輩と連絡をとることがあります。この繋がりを大切にしていきたいと思っています。

最後になりますが、この度、涓水会会長賞をいただくことができ、大変光栄に思っています。大学生生活を支えてくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。そして、徳島大学のさらなる発展をお祈りしています。

(令和4年 総合科学部社会総合科学科 心身健康コース卒)

直感を大切に



研究室の皆様と

なかやま みさき
中山 実咲



徳島大学で過ごした4年間は、入学するまで考えもしなかったことに挑戦できた日々でした。高校生の時、将来就きたい職業は明確になっていませんでしたが、興味を抱いていた心理学と、オープンキャンパスで関心を持ったスポーツ科学を勉強したいと思い、徳島大学に入学しました。

2年次のスペインへの短期留学が私の挑戦の1つです。語学力や治安の面から、外国に行くことには恐怖心がありました。しかし、1、2年次の英語の授業で、マドックス先生からスペイン留学の話を聞き、直感的に、おもしろそう！行ってみたい！という

気持ちが生まれました。「一緒に参加したい!」と言ってくれた友人と、「まさか留学に行きたいと言うとは…」と驚きながらも「やりたいと思った時に何でも挑戦しておきなさい」と言ってくれた両親に背中を押され、留学をする決心をしました。

留学先では村祭りのボランティアとして、街の装飾や、どら焼きを作って提供するといった活動をしました。現地の方がどら焼きを知っていると聞いた時、日本のアニメの知名度に驚きました。中の餡をチョコレートと勘違いしていたり、好みは分かっていたのですが、日本の食べ物を実際に外国の方に伝えられたことは、とても良い経験になりました。ドラえもんをスペイン語と日本語で歌って盛り上がったこと、村の方が作ってくださったパエリアの美味しさは今でも忘れられません。

3年次からスポーツ医学研究室に所属し、「足趾・四股トレーニングが下肢機能に与える影響」について研究しました。研究室には学部生がおらず、大学院生の先輩方と一緒にゼミに参加させていただいていました。当然のことですが、院生の先輩方と私の知識量の差は歴然で、先輩方が話している内容が全く理解できませんでした。しかし、そういった環境でためらわずに質問したことで、専攻分野への理解が深まるとともに、知識を増やしていくことの楽しさを知ることができました。

研究では足の内在筋を調べるため、超音波診断装置（エコー）を使用しました。これも大きな挑戦でしたが、やってみたいという気持ちが強くありました。画像に写っているものが何なのか全くわからないところからのスタートで、先生や院生の先輩に教えていただき、本や論文でも画像判断のしかたを勉強しました。また、エコーでの測定は、角度や力加減で測定値が変わってしまうため、実験を始める半年ほど前から操作練習を重ねました。

新型コロナウイルスの感染拡大により、実験の日程変更を行うなど、研究を思うように進められない時もありました。しかし、先生や院生の先輩方、研究に協力してくださった方々のおかげで、足趾・四股トレーニングが足部の筋力とバランスを改善し、スポーツ傷害の予防につながることを見出すことができました。

私は心配性で考え込むことがよくありました。しかし、学生生活最後となる徳島大学での4年間は、自分の気持ちに素直になり、やってみたいと思ったことはためらわず挑戦するようにしました。その結

果、以前よりも積極的になり、物事をポジティブに捉えることもできるようになりました。この経験から、何かに挑戦する時には、やってみたい!という直感を大切にすることが必要なのだと感じました。

現在は私立大学職員として、自分が大学を選ぶきっかけとなったオープンキャンパスの実施などに携わっています。高校生が、抱いている興味・関心に合った大学選びをして、大学生活で色々なことに挑戦できるよう尽力したいと思います。

最後になりましたが、この度このような素晴らしい賞をいただくことができ、たいへん光栄です。ご指導いただいた山口鉄生教授をはじめ、大学生活を支えてくださった教職員の皆様、家族、友人に心より感謝申し上げます。そして徳島大学の今後益々の発展をお祈りしています。

(令和4年 総合科学部社会総合科学科 心身健康コース卒)



スペインで現地の方に作っていただいたパエリア

徳島大学総合科学部渭水会会長賞表彰要項

(目 的)

第1条 研究活動及び学生としての活動全般について優れた者を表彰する。

(表彰人数)

第2条 学部生3名、修士課程(博士前期課程)院生1名とする。ただし、博士後期課程院生においても特に優秀と認められた場合は、1名を表彰人数に追加することができる。

(表彰者の選考)

第3条 学部生は4年次前期終了、修士課程(博士前期課程)院生及び博士後期課程院生は修了・退学時の前期終了までの研究活動・社会活動・成績等に基づいて行う。

第4条 1 学部生及び前期課程(修士課程)院生においては、次の基準に該当する者とする。

- (1)研究活動・社会活動等で優れた業績を有する者
- (2)GPA上位者

2 博士後期課程院生においては、原則として全国的な表彰を受けた者とする。

(表彰の決定)

第5条 表彰の決定は、学部長が招集する選考委員会で協議し、渭水会会長に推薦し、決定する。

(表彰の時期等)

第6条 表彰は、学部生においては4年次後期、院生においては修了・退学時の後期に渭水会会長が行う。

副賞として1名につき5万円を給する。

(要項の改廃)

第7条 この要項の改廃は、総会の議によって行うものとする。

附 記

- (1)平成29年5月27日(土)の総会で決定し、平成29年度より実施する。
- (2)令和2年5月30日(土)の理事会で決定し、令和2年度より実施する。

徳島市退職校長会講演会

会長 藤 田 まさ はる
正 治

徳島市退職校長会は、会員の研修と相互の親睦を図り、併せて本市の教育振興に寄与することを目的として活動を行っています。主な活動として、「総会・新入会員歓迎会」「叙勲・大臣表彰（章）等祝賀会並びに講演会」を行っています。

さらに、会員の絆を深めるための活動として、「いきいきサロン」を実施し、会員相互の親睦・情報交換にも努めています。

残念ながら、令和3年度も新型コロナウイルスの影響でほとんどの行事を中止し、「講演会」のみ役員参加で開催いたしました。「講演」について次のようにご報告いたします。

1. 期日 令和3年12月5日(日)
2. 会場 徳島市市民活力開発センター
3. 演題 「渋沢栄一と蜂須賀茂韶」
4. 講師 徳島城博物館館長 根津 寿夫 氏
5. 講演要旨

★はじめに

渋沢栄一は、「近代日本社会の創始者」と呼ばれた偉大な人物だ。2021年のNHK大河ドラマ「青天を衝け」の主人公に取り上げられ、さらに、2024年から発行される新一万円札にその肖像が盛り込まれることになったため、知らない人がないほど知名度があがった。

渋沢栄一は、500社を超える企業の設立に携わったという実業家のイメージが強いが、実は社会福祉事業や教育の振興、民間外交など多岐にわたる社会事業を行っており、その評価は高い。日本の近代化にともなって取り残されそうな人々を救おうとした訳だから、国民の幸福向上に努めた人物でもあったと考えている。

渋沢栄一の評価は絶大なものがあるが、その栄光の裏には同志ともいえる人々がいた。そのなかに、阿波の殿様、蜂須賀茂韶がいたことは知られていない。農民出身の一大実業家と大名華族の政治家との接点はどこにあったのだろうか。ここでは、渋沢栄一と蜂須賀茂韶の人となりに触れながら、共同の様子を探っていく。

★福沢諭吉の見た茂韶

茂韶はどんな人物だったのだろうか。福沢諭吉は、明治元年・2年頃、茂韶と面会した感想を次のよう記している（『福翁百餘話』（慶應義塾大学メディアセンターデジタルコレクション参照）。

「如何にも無礼横風なる少年にして曾て人に交るの法を知らず、書生同士の附合なれば一言馬鹿と評し去るの外なし」

諭吉は茂韶を、無礼で偉そうな言い振りの少年で、他人との交際の仕方を知らず、学生同士の付き合いであれば、一言、馬鹿と言って立ち去るしかない、と評している。「門閥制度は親の仇」を標榜した諭吉にとって、茂韶の言動は目にあまるものがあつたのだろう。

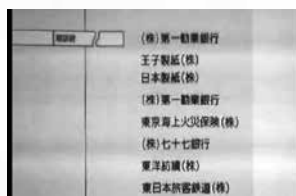
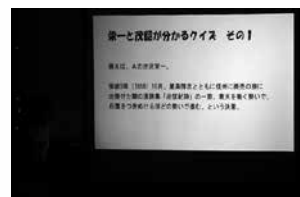
★留学中の蜂須賀茂韶（徳島城博物館蔵）

茂韶は、7年にわたる留学で、多くのことを学んだ。鉄道の発達を目の当たりした茂韶は、鉄道敷設建議書を政府に提出し、それが契機となり日本鉄道株式会社が設立されたという（徳島県立文書館企画展「徳島近代交通史」）。

イギリス留学は、茂韶の人生にとって大きな転機となった。帰国後、外交や政治、実業、さらに教育の世界で力を発揮することになる。

渋沢栄一は多くの事業を進めていったが、同志ともいえる協力者がいた。その一人が茂韶であった。

二人の共同の最初は、明治12年（1879）に開業した日本初の保険業、東京海上保険株式会社（東京海上日動火災保険株式会社）だ。海に囲まれた日本において海難救済の手段がないことに心を痛め、イギリスの制度を手本として海上保険事業を主導した。茂韶が社長、栄一と三菱財閥の創始者岩崎弥太郎が相談役を務めた。



《参加者の感想》

栄一と茂韶についてたくさん教えていただき、感銘を受け、県民として知るべき事の大切さを痛感した。

（昭和53年 教育学部中学校教員養成課程 地学教室卒）

徳島県退職女性教職員の会 学習会

会長 富田 真由美

日時 令和4年4月28日(木) 10:30~12:00

会場 ホテルグランドパレス

講演 「私と人形浄瑠璃」

講師 阿波人形浄瑠璃研究会青年座代表

小原 伸二 氏

＜学習会の概要について＞

徳島県退職女性教職員の会では、総会の後に会員の学習会を実施している。今年は、阿波人形浄瑠璃の公演を続けている青年座代表の小原伸二さんに「私と人形浄瑠璃」をテーマに講演をしていただいた。

小原さんと人形浄瑠璃の出会いは、城北高校民芸部での部活動であった。その後、1981年に青年座を結成、「人形浄瑠璃をより身近なものに、親しみのあるものに」することをメインに活動を続けてきた。特に、小屋掛け公演と農村舞台復活に尽力し、落語やオペラ、歌舞伎や和太鼓（鼓童）などとのコラボ公演など活動の幅を広げてきた。またジェンダー浄瑠璃、コロナ浄瑠璃、

警醒電話鳴るとオレオレ詐欺の段など、創作浄瑠璃公演など社会的啓発活動も手がけている。学習会では「警醒電話鳴るとオレオレ詐欺の段」の公演を視聴した。

学習会では実物の人形を使って主遣い、左手遣い、足遣いなどの仕組み、3人で人形を操ることなど、わかりやすく説明し、理解を深めてくださった。1999年には、阿波人形浄瑠璃が国指定の重要民俗文化財に指定された。その背景には、青年座をはじめとする阿波人形浄瑠璃を保存し継承してきた人たちの地道な取り組みがあったのだと思う。

小原伸二さんは、川内中学校民芸部顧問として、中学生に人形浄瑠璃の面白さを伝え、後継者の育成に取り組んでいる。子どもたちが人形を操ってコミカルな阿波踊りをしたり、ラジオ体操をしたり、パブリカの唄に合わせたダンスを踊ったりと人形浄瑠璃の世界の楽しさを共有していた。小原伸二さんの人形浄瑠璃への情熱を感じたひとときだった。

(昭和49年 教育学部中学校課程 社会科史学教室卒)

東 南光先生遺作展

実行委員会事務局 井 上 彰 夫

日時 令和4年8月5日(金)~8月7日(日)

会場 徳島大学ガレリア新蔵

主催 東 南光先生遺作展 実行委員会

(徳島大学書道部、書道部OB会)

令和2年7月に79歳で亡くなった徳島大学名誉教授で書家の東 南光（本名 國恵）先生の3回忌に合わせて初めて開催された遺作展。徳島大学書道部と書道部OB会で作る実行委員会が主催し、ご遺族の協力を得て遺作約50点を展示した。会場には、225cm×53cmの画仙紙4枚に酔古堂剣掃の一節をしたためた大作をはじめ、東 南光先生が来徳し書道を通して数多くの人々と出会った感慨をダイナミックに表現した「墨縁」、徳

島ゆかりの万葉集歌を大谷焼に揮毫した作品、さらには徳島大学在任中に編纂・発行した「宋四家字典」や150回を超える中国訪問時の文集・写真が一堂に展示され、来場者を魅了した。3日間の会期中には、猛暑にもかかわらず238名が訪れ、作品や実行委員40名（うち渭水会会員30名）が寄せたエピソードなどをまとめた冊子を通し、東 南光先生の人柄・業績をしのんだ。また、徳島新聞記事や四国放送「フォーカス徳島」のテレビニュースにも取り上げられた。渭水会関係では、今回も遺作展を契機に30年、40年ぶりに再会したという会員も多く、会場の一角に展示された書道部関係の古いアルバムや文集を見ながら旧交を温めた。

(平成元年 教育学部小学校教員養成課程卒)



総科ニュース

※この総科ニュースについての詳細は、徳島大学総合科学部総務係にお尋ねください。

徳島大学総合科学部総務係 TEL：088-656-7103 FAX：088-656-7298

E-mail：sksoumuc@tokushima-u.ac.jp

【総合科学部の1年】

令和3年(2021)7月～令和4年(2022)6月

※令和3年8月 総合科学部振興会総会の開催

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和3年度の総合科学部振興会（在学生の保護者会）総会は参集形式での開催を中止し、書面報告・決議により実施しました。

※令和3年8月 オンラインオープンキャンパスの開催

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和3年度の総合科学部オープンキャンパスはオンラインで行われました。コース紹介などの動画コンテンツをオンデマンド方式で配信したほか、8月11日(水)にはZoomを使ったLIVE OPEN CAMPUSを開催し、県内外の多くの方々に参加いただきました。

※令和3年9月16日(木) 令和3年度地域系大学・学部等連携協議会に参加（開催校：宮崎大学）

令和3年度地域系大学・学部等連携協議会が宮崎大学で開催され（オンライン会議）、地域志向型教育の新たな可能性等について意見を交換しました。

※令和3年9月16日(木) 第26回新構想学部教育・研究フォーラムに参加（開催校：静岡大学）

第26回新構想学部教育・研究フォーラムが静岡大学で開催され（オンライン会議）、オンライン授業の課題と工夫等について意見を交換しました。

※令和3年9月24日(金) JR四国主催の旅行企画コンペ「地域観光チャレンジ」で本学部の企画案が金賞・銀賞を受賞

四国4国立大学が参加するJR四国主催の旅行企画コンペ「地域観光チャレンジ」で、総合科学部学生による旅行企画案が金賞・銀賞を受賞しました。企画はJR四国のツアーとして商品化され、令和4年6月に「古民家 restaurant ～空き家 wo 見る知る 空き家 de 感じる」および「出羽島生活体験ツアー」として催行されました。

※令和3年9月30日(木) 第21回国立大学法人17大学 人文系学部長会議に参加（開催校：岩手大学）

第21回国立大学法人17大学人文系学部長会議が岩手大学で開催され（オンライン会議）、教育・研究・組織運営・地域連携等にかかる課題について意見を交換しました。

※令和3年11月19日(金) 在学生と学部長との懇談会を開催

学生8名、教職員5名が参加し、学部のカリキュラム、学生生活、施設・設備等について意見交換を行いました。いただいたご意見は、今後の教育・研究環境の改善に反映させてまいります。

※令和3年11月19日(金) 優秀学生（3年次学生）表彰式

学業成績が優秀な学部学生（3年次学生）に贈られる優秀学生表彰式があり、学部3年次の優秀学生10名を表彰しました。表彰者は次のとおりです。

〔国際教養コース〕 富田 麻衣、中釜 睦深

〔心身健康コース〕 高藤 睦未、野口奈々夏

細川 鈴香、山内 芙優

〔公共政策コース〕 真相 紗綾、松島明日香

〔地域創生コース〕 篠原 郁実、原 桜子

※令和4年2月8日(火) 康楽賞贈与式（オンライン）

徳島大学の優秀な専任教員および学生を対象として、公益財団法人康楽会により「康楽賞」が贈られました。総合科学部の受賞者は次の方々です。

〔教員の部 学術研究関係〕

大学院社会産業理工学研究部教授 衣川 仁

〔学生の部 学術研究関係〕

大学院総合科学教育部博士後期課程

1年次 榎本 裕貴

総合科学部4年次 清水 勇輔、北野 真帆

〔学生の部 奨学生関係〕

総合科学部4年次 篠原 愛実、中山 優菜

***令和4年2月21日(月) 大学院修了予定者と教育部
長・専攻長の懇談会を開催(オンライン)**

大学院修了予定者5名、教職員6名が参加し、カリキュラム、論文指導体制、研究設備等について意見交換を行いました。いただいたご意見は、今後の大学院の教育・研究環境の改善に反映させてまいります。

***令和4年3月23日(水) 令和3年度卒業式・修了式**

令和3年度の卒業式・修了式は、十分な感染防止対策を講じた上で、アスティとくしまで対面形式で行われました。学部卒業生は182名、大学院修了生は創成科学研究科修士課程地域創成専攻8名、臨床心理学専攻6名、総合科学教育部博士前期課程地域科学専攻2名、臨床心理学専攻1名、博士後期課程地域科学専攻2名。

***令和4年3月 優秀学生(4年次学生)の表彰**

学部4年次の優秀学生表彰者は次のとおりです。

〔国際教養コース〕後藤田秀平、笹倉 拓真
武田真智子、中山 優菜
〔心身健康コース〕篠原 愛実、中山 実咲
〔公共政策コース〕角和 佳奈、松木 奈央
〔地域創生コース〕賀川 歩香、二宮 由衣

***令和4年3月 渭水会会長賞の授与**

令和3年度の受賞者は次のとおりです。
〔大学院創成科学研究科修士課程地域創成専攻〕
松本 卓也
〔国際教養コース〕栗飯原瑞紀
〔心身健康コース〕篠原 愛実、中山 実咲

***令和4年4月6日(水) 令和4年度入学式**

令和4年度の入学式は、十分な感染防止対策を講じた上で、アスティとくしまで対面形式で行われました。入学者数は、総合科学部173名、大学院創成科学研究科博士前期課程地域創成専攻9名、臨床心理学専攻12名、博士後期課程創成科学専攻3名。

***令和4年4月7日(木) 新入生オンライン交流会を開催**

新入生オリエンテーションの一環としてオンライン(Zoom)による新入生交流会を開催しました。

***令和4年5月28日(土) 令和4年度渭水会総会の開催**

令和4年度の渭水会総会は、十分な感染防止対策を講じた上で、対面形式で開催しました。活動計画の中で、総合科学部創立150周年記念事業を学部主催・渭水会共催の形で2024年秋頃に実施することを承認しました。

***令和4年6月22日(水) 令和4年度総合科学優秀賞
受賞者表彰式の挙行**

優れた研究成果を発表した総合科学部教員に対して贈られる総合科学優秀賞に横谷謙次准教授が選出され、表彰式が行われました。受賞にかかる研究分野は「人間文化・人間社会の向上に関する基盤研究」です。

【人事異動】

***コース長の紹介**

総合科学部社会総合科学科の各コース長に以下の4名が選出されました。任期は令和4年4月1日～令和5年3月31日までの1年間。

国際教養コース 村上 敬一 教授
心身健康コース 佐藤 裕 教授
公共政策コース 饗場 和彦 教授
地域創生コース 平木 美鶴 教授

***教職員の異動**

令和4年3月31日付で、次の教員が退職されました。
スティーヴンズ・メリディス・アン 教授(英語教育学)
桑原 恵 教授(日本史学)

令和4年4月1日付で、次の教員が着任されました。
榎本 拓哉 准教授(臨床心理学)

令和4年4月1日付で、次の教員が昇任されました。
内海 千種 教授(臨床心理学)
津村 秀樹 准教授(臨床心理学)

令和4年4月1日付で、次の事務職員が着任されました。

山下 圭 氏(総合科学部事務課学務係長)
喜多 望美 氏(総合科学部事務課総務係)
釘宮 希 氏(総合科学部事務課学務係)

徳大ニュース

1 「徳島大学びざん会」に名称変更しました

本学には、現在、各学部等を中心に7つの同窓会があり、それぞれの活動を続けておられます。本学がさらに教育・研究・社会貢献の分野で卓越した成果を上げ、広く社会から評価される大学であるために、教職員、学生はもとより卒業生・修了生の枠組みを越えた交流及び連携が不可欠と考え、平成18年に「徳島大学同窓会連合会」を設立いたしました。

その後、これまで「徳島大学同窓会連合会」の交流会の名称として、各同窓会にとっても慣れ親しまれた「びざん会」を連合会の名称として発展させてはどうかとの提案を受け、令和4年4月に「徳島大学びざん会」に名称変更いたしました。今後も、各同窓会との交流・連携を引き続き進めるとともに、卒業生・修了生との絆を一層深めていくための取組を強化してまいります。

(https://www.tokushima-u.ac.jp/visitor/graduates/alumni_association/index.html)

2 「未来創造課」が新設されました

令和4年4月1日より、同窓生をはじめとするステークホルダーへの情報発信強化、同窓生との連携強化などの観点から、総務課広報室及び同窓生・基金室を再編統合し、未来創造課を設置いたしました。

未来創造課では、広報係と同窓生・基金係がそれぞれの役割を果たしながら、同窓生の皆さまへの情報発信に努め、皆さまの母校である徳島大学のさらなる発展に向けて取り組んでまいります。

3 徳島大学基金を活用させていただきました

皆さまからご支援いただいた基金を活用させていただき、本学附属図書館東側の「工学部（現理工学

部）創立50周年記念公園」の改修整備を行いました。徳島大学創立70周年記念事業基金の補助を受け、皆さまに親しまれるスペースが誕生しました。

また、コロナ禍及び昨今物価高騰の影響で、生活に困窮する学生を支援するため、教育・研究・社会貢献事業基金を活用させていただき、本学生協食堂での「食事」等の利用時に使用できるクーポンを学生約350名に配布しました。

改めてご支援いただきました皆さまに感謝申し上げます。

4 「医光/医工融合プログラム」が新設予定です

本学では、令和5年度入学者選抜より理工学部理工学科（昼間）において30名の定員増を行い、「医光/医工融合プログラム」の設置を予定しております。

このプログラムは、光学（工学）と医学を発展的に融合させ、理工学部・医学部・ポストLEDフォトリクス研究所・先端酵素学研究所などによる学部等横断型の特別プログラムとなっています。

本学、そして徳島県の強みの1つである「LED」を活かしたイノベティブな「医光/医工融合人材」の育成を行うことで、未来を切り拓き「キラリと光る徳島大学」をめざしてまいります。

5 オンラインびざん会を毎月開催しています

徳島大学びざん会では、同窓生の方々の交流機会の拡大の一助となることを目的として、毎月1回オンラインびざん会を開催しています。大学・研究者・学生の活動を紹介する場を設けており、どなたでもご参加いただけます。過去の様子はYouTubeにて公開していますので、ぜひご覧ください。皆さまのご参加をお待ちしております。

徳島大学基金へのご協力をお願い

「徳島大学基金」は、皆さまからご支援いただいた寄附金を基金として事業区分ごとに積み立て、徳島大学の教育研究等の発展のために使用させていただくものです。webサイトからクレジットカードやコンビニを利用したお申し込みも可能です。詳しくは徳島大学基金ホームページ（<https://www.tokushima-u.ac.jp/contribution/support/>）をご覧ください。

- ・基金に関するお問い合わせ：徳島大学総務部未来創造課 電話：088-656-9979
- ・税制上の優遇措置に関するお問い合わせ：徳島大学財務部資産管理課 電話：088-656-7037

SNSのご案内

徳島大学公式 Twitter



同窓生・基金係 Facebook



同窓生・基金係 YouTube



事務局だより

●助成事業の申し込みについて

助成事業の要項に該当する事業をご計画の会員がおられましたら、お申し込みください。P41の申請書をコピーしてお使いください。事務局にご連絡いただければ、様式（Word形式）をお送りします。お問い合わせ・お申し込みについては事務局までお願いいたします。

●異動届のお願い

会員相互の親睦等同窓会活動に、また、会報のお届けにと名簿は、渭水会にとって、重要な財産のひとつです。名簿の整備・管理には、鋭意努力しておりますが会員の皆様方のご協力が不可欠です。

現在、転居等により会報をお届けできていない会員も多数おられます。お手数ですが異動等ございましたらその都度事務局までお知らせいただければ幸いです。

会員数も膨大になり同姓同名の会員もおられます。誤記を避けるためにも、卒業（修了）年、課程（学科）、専攻（コース）、旧姓を記載いただき、できるだけ文書・ファックス・メールにてお知らせくださいますようお願いいたします。

●終身会員の募集についてのお願い

渭水会では、昭和54年入学生より終身会費制になりましたが、まだご存じない方がおられます。同窓会の折に渭水会の組織・事業等をお話いただき終身会員になってくださるようお勧めいただければ幸いです。終身会員には会報が郵送されます。

終身会費納付額

卒業（修了）年	納付額
昭和21年以前	4,500円
22～27	7,500円
28～33	10,500円
34～39	13,500円
40～45	16,500円
46～51	19,500円
52～57	22,500円

郵便振替口座番号 01610-1-21392
加入者名 徳島大学渭水会

なお、会報がお手元に届いている方は、すでに終身会員ですが、ご自分が終身会員かどうか分からない方は、事務局までお問い合わせください。

渭水会事務局

事務局は総合科学部1号館北棟1階入り口すぐ（部屋番号1N01）です。

業務時間および連絡方法は、以下の通りです。

時間／水曜日 13：30～17：00

（祝祭日および大学の休業日は除く）

TEL 088-656-7293（月～金 10：00～17：00）

FAX 088-679-8485

E-mail info@isuikai.jp

URL <https://www.isuikai.jp>

編・集・後・記

●本誌でもご紹介している通り、総合科学部は2年後に創立150周年を迎えます。徳島師範期成学校から現在の総合科学部に至るまで、改称や再編など様々な変化がありましたが、夢や希望、時に不安や心配…などを感じながら学ぶ学生の姿は変わらないのではないかと思います。この長きにわたる歩みを、さらに飛躍をもって進められるように、同窓生のつながりも作っていくことができればと思います。（U3）

●150周年記念事業がスタートを切り、シンボルマークの制作やキャッチコピーの募集などが始まりました。そこで「渭水会も150周年に向け新しいロゴタイプを」と、総合科学部映像デザイン研究室の佐原 理先生にお願いしました。創始年の“1874”が入れ込まれた意義深いロゴタイプに、広報委員一同大興奮！ 会報の表紙も思い切ってリニューアルしました。いかがでしょうか？

●150周年記念グッズ第1弾はクリアファイルセットです。制作にあたり、快くご協力くださいました平木美鶴先生、佐原 理先生に深く感謝申し上げます。……ちなみに、樺並木の写真は事務局撮影です（←自慢・笑）（ね）



ユーカリの花（総合科学部キャンパスにて）



渭水会